

# 各自治体の注目施策

## 坂井市 シティセールス推進事業

平成27年度事業がスタート

市や製品の「認知」に始まり、  
「住む、訪れる、買う」と  
いった「行動」までの情報の  
流れを組み立て発信する「戦  
略PR」の手法を用いた坂井  
市のシティセールス戦略を昨  
年新設の担当課へ取材しまし  
た。

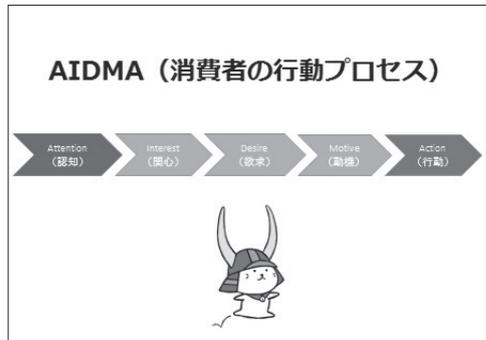
### 情報発信のイノベーション

坂井市では昨年、秘書広報課内  
にまちの認知アップや魅力の発信  
を図ることを目的にシティセール  
ス推進室を設置しました。

しかし全国に情報発信すると  
言っても自治体に広告にかける十  
分な予算はありません。そこで、  
坂井市が新しく取り入れたのが  
「戦略PR」というPR手法です。  
認知はされていても、なぜ人が動  
かないのかを追求し、新たな機軸  
で情報を発信していく、いわゆる  
「情報発信のイノベーション」で  
す。

### 「ひこちゃん」のブレイクに学ぶ

「イノベーション」を辞書で引  
くと、「イノベーションとは新し  
い技術の発明だけではなく、「新  
しい考え方」を取り入れて新たな  
価値を生み出し社会に変化を起  
すこと」とあります。



シティセールスの世界でもこの  
考えを取り入れ、社会や地域に変  
化をもたらしている成功事例はた  
くさんあります。例えばゆるキャ  
ラの元祖であり、年間何百億円と  
いう経済効果を生み出した「ひこ  
ちゃん」がそれです。同じ地に同  
じ形で建ちながら、四百年後に大  
ブレイクを果たしたのは、城ブー  
ムの中で若い女性をターゲットに  
発案された「ひこちゃん」とい  
う新機軸でした。

その他にもかつては公害の象徴  
とされてきた川崎市の工場を海か  
ら巡る「工場夜景ツアー」やソウ  
ルフードを一大観光にしまつた  
「讃岐うどん観光」など枚挙に  
暇がありません。

### プロモーションカレンダーを組む

情報は生物（なまも  
の）なので「旬」があ  
ります。いつ仕掛ける  
のが効果的なのかをプ  
ロモーションカレンダー  
ダーに落とし込んでお  
くことも大切です。

坂井市がこの4月に  
東京で実施した「三国  
港フェア」では、この  
時期に最も話題が高  
まっていると予想した  
いわゆる地方創生予算  
を発信の新機軸としま  
した。北陸新幹線の開  
通直後という関心事も  
視野に入れた展開で、  
幸福度日本一の福井県  
にあやかり、「地方創  
生福袋」と銘打った魚  
介類の販売を行いました。

首都圏での経済番組



で紹介されたこともあり、商業者  
の反響を呼び、三国産「甘えび」  
を取り扱う飲食店は1か月で一気  
に300店舗を超えるまでになり  
ました。いわゆる事業者の関心を  
高め、AIDMAの認知から行動  
までの流れを繋げた一例です。

## 地域のモチベーションを高める

シテイセールスを進める上で、うひとつ忘れてはいけないのが、街づくりの原動力となる「シビックプライド」の醸成です。

行政はあくまで地域の方々に代わって施策を行う代理人に過ぎません。地域の主体はあくまで市民の方々であり、シテイセールスは全て市民の誇りに繋がるものでなくてはなりません。そして、そのモチベーションは市民や企業が

自らその取り組みに関わった時に生まれます。

丸岡町では、この夏、まちづくり協議会の方々に協力をいただき、これからの地域を担う中学生や高校生に街の良さを知ってもらう取り組みも進んでいます。

坂井市では、街や観光地の規模ではなく、市民の力でまちの魅力が全国へ、そして世界へ発信される形を目指していきたいと考えています。

その玄関口に位置する水の駅に対し、地域住民や観光客、観光関係者等より、観光情報の強化や地域

特産品の販売の導入などを求める声が多く寄せられるようになりました。

このようなニーズに応えるため、施設機能の充実を図ると共に、より多くの方に利用していただけるよう「道の駅」への登録を行いました。

そして、今年4月、一乗谷あさくら水の駅が福井市初の「道の駅」としてリニューアルオープンしました。

## 主な施設

- ・ふれあい情報館  
(軽食コーナー、特産品販売コーナー、情報発信コーナー)
- ・交流施設
- ・三連水車・水車小屋
- ・芝生広場
- ・体験農園(田・畑)
- ・ピオトープ

## 施設概要

- ・駐車場 26台  
(大型5台、普通20台、障がい者用1台)

## 開館時間

- ・ふれあい情報館、水車小屋 9時～18時
- ・その他の施設 終日
- ・休館日 終日
- ・ふれあい情報館、水車小屋 毎週水曜日、年末年始



## ふれあい情報館

### ●軽食コーナー

手打ちの福井名物「おろしそば」や道の駅オリジナルのソフトクリーム等を味わうことができます。

# 道の駅 一乗谷あさくら水の駅

## これまでの経緯

水の駅は、「人と水の交流駅」と「一乗谷周辺観光の発着駅」という2つのコンセプトから平成22年にオープンし、水と農業、生物のかかわりを学ぶ場として、人々との交流の場として、多くの市民に利用していただいています。しかし、近年、一乗谷朝倉氏遺跡への観光客が増加している中で、



### ●特産品販売コーナー

地場産野菜を始め、水の駅限定商品や「ふくいのみ恵み」認定加工品等を購入することができます。



### ●情報発信コーナー

一乗谷朝倉氏遺跡を中心とする県内の観光情報や道路情報等を提供しています。

### 体験農園

子どもたちに、農業の大変さや収穫の喜びを知ってもらい、農業や食への関心を高めてもらおうと、年間を通じた農業体験を行います。

小学生を対象にした田んぼ体験や、家族を対象にした畑体験などを行っており、毎年、多くの方に参加いただいています。

### ビオトープとホタル飼育

近年、環境の変化等により減少傾向にあるホタルを保全していくため、ホタルを飼育しビオトープに放流をしています。

毎年6月には、ビオトープで美しい光を放ちながら飛び交う蛍を観賞することができます。

### 道の駅とは

国土交通省の認可を受けた、「休憩機能」、「情報発信機能」、「地域の連携機能」の3つを併せ持つ休憩施設です。

「道の駅」は、全国に1000箇所あり、所以上、福井県内にも14箇所あり、その数は年々増加しています。

近年では、これまでの道路利用

者の休憩施設としての機能だけでなく、地域振興の拠点となるなど、多様化しています。

福井市農村整備課 西井真澄

## 大野市 新庁舎でワンストップ サービスを充実

### 新庁舎での業務開始

平成27年12月、大野市役所の新庁舎が完成しました。

平成22年度の基本構想策定をスタートとして、実施設計、建設工事を経ての完成となりました。

平成27年1月から新庁舎で業務を行うため、年末年始で職員も総出で、引越しを行い新庁舎での業務開始に備えました。

### 新庁舎の特徴

新庁舎の特徴はいろいろありますが、ワンストップサービスを基





本に、ほぼ全ての課がカウンターを備え、来庁者との応対に重視を置いた設計になっていることが挙げられます。

特に1階を「市民サービス部門」とし、市民生活課や税務課、建設整備課。農業林業振興課、商工観光振興課など、市民が訪れる課を配置しています。

また、福祉関係の各課とは、渡り廊下を介して、市民生活課と連携できるように設計をしています。

2階は「執行部門」とし、総務課や企画財政課、市長室、防災防犯課を配置しています。

また、防災防犯課と隣接する形で、緊急時の拠点となる大会議室

を配置しています。

3階は、議会を配置し、1階から3階まで中央部を吹き抜けとすることで、明るい庁舎を実現しています。

また、吹き抜けには、薪ストーブを設置し、冬季の暖房にも活用しています。

新庁舎では、基本的に事務室はすべてワンフロアとなり、仕切りはありません。

職場の見通しはよくなりましたし、壁で囲まれていたより、職場は明るくなったと感じています。

### その他の設備

その他、階段の照明はセンサー式になり、屋上には太陽光発電設備を設置しました。雨水循環設備や自家発電も備えています。

また、地元産木材を活用して木が感じられる庁舎となっています。



### フロアマネージャー

新庁舎では、1階の一番目立つところに総合受付を設置しています。

総合受付では、主査以上の職員が半日交代で案内係（フロアマネージャー）を務めています。

来庁者に声を掛け、案内するこ

とで、すべての職員の応対がレベルアップしたと感じています。



### 今後のこと

今後、10年20年と月日が経過するなかで、機構改革などで、庁舎の活用方法も変わってくるかも知れません。

しかし、窓口対応を重視し、ワンストップサービスを目指す考え方は変わらないと思います。

これからも、この庁舎とともに市の職員として業務を遂行していきたいです。

大野市職労 副執行委員長

野田博幸